

広島県感染症発生動向月報

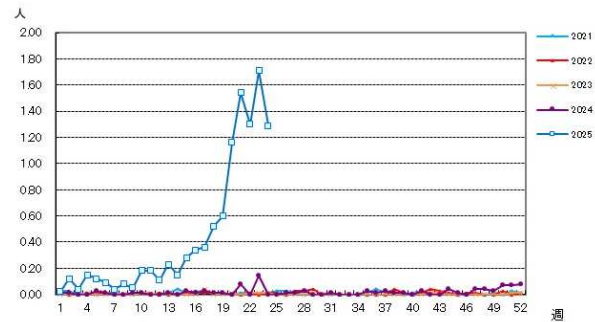
[広島県感染症予防研究調査会]

(令和7年6月解析分)

1 今月のトピックス

■ 伝染性紅斑の感染者数が増加しています！感染対策を徹底しましょう！！

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 が原因の感染症で、両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とも呼ばれています。予防のため、手洗いやうがい等基本的な感染対策を行ってください。なお、妊婦が感染すると、まれに胎児の異常や流産を引き起こすため、注意が必要です。5月22日に「伝染性紅斑警報」を県内全域に発令し、一層の注意喚起を図っています。



広島県の発生状況 (定点当たり報告数)



広島県 感染症発生状況

検索



■ 話題の劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (いわゆる人食いバクテリア) について

- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、急激かつ劇的な病状の進行を特徴とする致死率の高い感染症です。
- ・通常は、レンサ球菌に感染しても無症候のことも多く、ほとんどは咽頭炎や皮膚の感染症にとどまりますが、まれに通常は細菌が存在しない組織 (血液や筋肉など) に菌が侵入することで、重篤な疾患となることがあります。
- ・主な病原体はA群溶血性レンサ球菌ですが、他にB群やG群などが原因となることもあります。
- ・子供から大人まで広範囲の年齢層に発症しますが、大人 (特に高齢者) に多いのが特徴です。
- ・増加の理由は明らかになっていませんが、経年的な増加傾向に加え、新型コロナウイルス感染症の対策緩和以降、様々な呼吸器感染症が増加する中で、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数が増加したことも一因と考えられます。

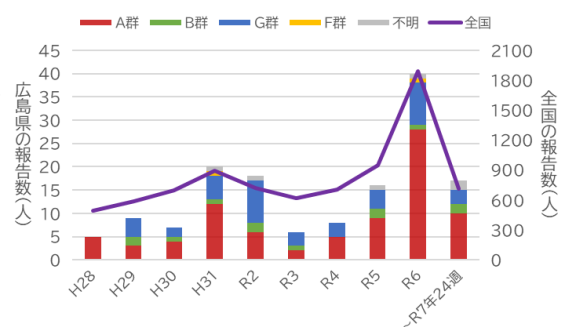
【症状】

- ・初期症状は、咽頭痛、発熱、消化管症状 (食欲不振、吐き気、おう吐、下痢)、全身倦怠感、低血圧などの敗血症症状、筋痛などが見られます。
- ・発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内には筋肉周辺組織の壊死を起こすことや、血圧低下や多臓器不全からショック状態に陥り、発病後数十時間で死に至ることも少なくありません。
- ・四肢の疼痛、腫脹、発熱などの感染の兆候が見られる場合は、速やかに医療機関を受診してください。

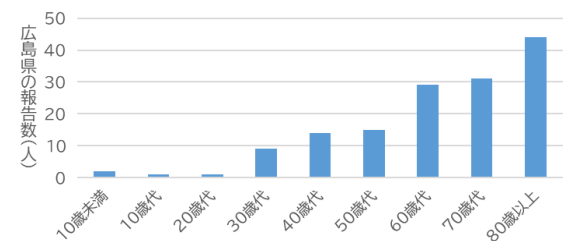
【予防】

- ・飛沫感染や接触感染によって感染することから、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染予防により、原因となる溶血性レンサ球菌に感染しないことが重要です。
- ・手足の傷口から感染する場合があるため、傷口を汚い手で触らないなど、清潔に保つことが大切です。

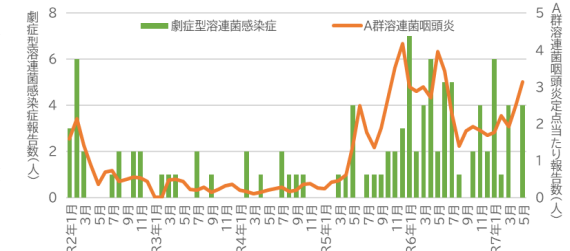
劇症型溶血性レンサ球菌感染症の年別発生状況



劇症型溶血性レンサ球菌感染症の年代別報告数 (H28~R7年週)



広島県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数 (H31~R6年9月)



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和7年 5月分(令和7年5月5日～令和7年6月1日:4週間分)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	19,720	52.73	-	↗	11	突発性発しん	60	0.26	0.29	↗
2	インフルエンザ ※3	184	0.49	0.49	↔	12	ヘルパンギーナ	4	0.02	0.16	↗
3	新型コロナウイルス感染症 (covid-19) ※1	273	0.73	-	↗	13	流行性耳下腺炎	13	0.06	0.04	↗
4	RSウイルス感染症	50	0.22	1.10	↘	14	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.01	↗
5	咽頭結膜熱	151	0.66	0.51	↑	15	流行性角結膜炎	78	1.03	0.46	↗
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	718	3.12	1.26	↗	16	細菌性髄膜炎	2	0.03	0.01	↗
7	感染性胃腸炎	1,662	7.23	4.04	→	17	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	↗
8	水痘	27	0.12	0.10	↑	18	マイコプラズマ肺炎	37	0.46	0.04	↗
9	手足口病	25	0.11	0.39	↗	19	クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	↗
10	伝染性紅斑	264	1.15	0.02	↑	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	22	0.28	0.02	↘

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。 ※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和7年 5月分(5月1日～5月31日)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号
21	性器クラミジア感染症	57	2.59	2.98	↗	25	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	74	3.70	3.06	→
22	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.82	0.89	↗	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.05	0.11	↗
23	尖圭コンジローマ	8	0.36	0.81	↘	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.01	↗
24	淋菌感染症	23	1.05	1.30	↗	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 咽頭結膜熱 (0.04 → 0.66)
水痘 (0.08 → 0.12)
伝染性紅斑 (0.38 → 1.15)
○急減疾患 なし

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増 減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象7疾患)について、県内154の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～27	
定点数	36	57	19	22	20	154

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾 患 名 (管轄保健所)
一 類	0	発生なし
二 類	29	結核(29)〔西部保健所(3)、西部東保健所(3)、東部保健所(4)、広島市保健所(10)、呉市保健所(3)、 福山市保健所(6)〕
三 類	9	腸管出血性大腸菌感染症(9)〔西部保健所(2)、広島市保健所(7)〕
四 類	28	A型肝炎(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 レジオネラ症(7)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(3)〕 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(1)〔東部保健所(1)〕 日本紅斑熱(18)〔西部保健所(1)、西部東保健所(2)、東部保健所(6)、北部保健所(1)、広島市保健所(2)、 呉市保健所(2)、福山市保健所(4)〕
五 類	382	ウイルス性肝炎(4)〔西部保健所(2)、広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4)〔広島市保健所(3)、福山市保健所(1)〕 侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(6)〔広島市保健所(3)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕 水痘(入院例)(1)〔広島市保健所(1)〕 播種性クリプトコックス症(1)〔東部保健所(1)〕 破傷風(1)〔広島市保健所(1)〕 梅毒(27)〔東部保健所(2)、広島市保健所(16)、呉市保健所(1)、福山市保健所(8)〕 百日咳(337)〔西部保健所(59)、西部東保健所(53)、東部保健所(38)、北部保健所(1)、広島市保健所(147)、 呉市保健所(20)、福山市保健所(19)〕